

日本人学生のスペイン語教育に関して — 教育改革におけるニーズの分析 —

La Enseñanza Del Español a Los Estudiantes Japanese: Analisis de Necesidades de Aprendizaje

宮 城 スサナ

MIYAGI Susana

はじめに

私は、日本に来日にしてから25年の歳月が経たったが、この25年の中で23年間、スペイン語の教育に携わっている。スペイン語の教育をスタートとした当初は、文法を中心とした指導を指示されることがあったが、教育の場には経ち続けている中でスペイン語を習得するには文法だけではなく、「会話」に重点を置かなくてはならないことに気が付いた。

日本では外国語を勉強する際に、必ず「文法」に重点を置く。現に、これまで携わった教育現場では、「文法」の授業割合が大半をしめていた。しかし、文法の授業ばかりに重点を置くことは、学生のモチベーション低下に繋がり、頭ばかりでの理解となりコミュニケーションは上達しないまま教育が終了する。

この言語における日本教育の実態の追求も研究をはじめた理由の一つである。より多くの学生にスペイン語・外国語を学ぶ楽しみを実感してもらうため、そして英語だけではなくスペイン語も近い存在へとしていきたい。

• スペイン語の歴史

日本におけるスペイン語の歴史は、15世紀に遡る。1549年に鹿児島に来日した最初の宣教師として知られる、フランシスコ・ザビエル。彼のみが強く認識されているが、彼と一緒に2名の宣教師も来日していた。コスメ・デ・トレスとフアン・フェルナンデスだ。この3名は、イエズス会を日本に広めたスペイン人とポルトガル人の宣教師であり、日本国民が初めて接触した西洋人とされている。

また、彼らの他にも16世紀の終わりから17世紀の初めに、スペイン国王の指示により、同様の目的でフランシスカンとドミニカン宣教師も送りこまれている。

宣教師らはキリスト教を日本に布教するため、ラテン語と日本語を使用した。当時、聖書などの宗教における資料はすべてラテン語で記載されていたため、お祈りなどはすべてラテン語で行われていたが、布教活動時には日本語を話していたとされている。宣教師らは日本人の信者に神学や典礼又は聖書を読ませるため、ラテン語を教えていたという記録

も残っている。但し、教えられていたのは、ラテン語だけではないとも考えられる。当時の聖書や神学を示した資料の一部は、スペイン語やポルトガル語で書かれているものもあった。そのため、ラテン語だけでなくスペイン語やポルトガル語も合わせて教えられていた可能性が高いといえる。

宣教師らは日本国民と関係を構築するため、日本語を学ぶ努力を重ねていた。そして、聖書やその他の宗教的な資料を日本語に和訳することに成功した。その他にも、ラテン語などの文法に関する書著や辞書などをも作成した。この宣教師らの活動により、パン、カステラ、たばこ、ミサ、ロサリオなどの外来語が、日本に今も強く根付いているといえる。

そして、1613年に日本はスペインとの歴史的な一歩を踏み出す。当時の仙台藩主である伊達政宗とスペインのドン・ロドリゴ・ビベリオが通商交流をすすめるべく、スペイン国王フィリップ3世とローマ教皇のポール教皇5世係のもとへ、使節を派遣した。これを「慶長遣欧使節(けいちょうけんおういせつ)」と呼ぶ。日本がスペインに派遣した使節は外交公式代表団であり、両国の関係の端緒となる出来事である。(2013年に日本とスペインは400年の外交を祝い、両国は兄弟国と合意した)

しかし1614年、宗教の信仰や布教を禁ずる令として禁教令が発令され、特にキリスト教を禁じ、西洋人の迫害と追補が行われた。そして1639年、鎖国が開始されることにより、国際社会から日本は孤立することとなる。

研究者によると19世紀の明治時代に政府の方針の転換により開国が行われ、これを境に再度外国文化の受け入れが行われたとされる。これにより再度スペイン語が日本の中で広まっていく。具体的な日付とデータを提供するため、ウガルテ・ビクトル、東京セルバンテススペイン語学院のディレクターの情報を使用する。2012年度の記事「El Espanol En Japon」東京セルバンテススペイン語 語学学校で乗せられた記事の情報である。

1873年に最初の語学専門学校が開校された。しかし、その語学学校のカリキュラムの中にはスペイン語と英語のコースは含まれていなかった。というのも、当時まだ正式にスペインとの外交関係は結ばれていなく、結ばれたのは1878年になってのことだ。その他メキシコ・アルヘンチナ・チリなどのスペイン語圏も同様で、1880年代に入ってから外交が結ばれたこともあり、他言語に比べスペイン語は学べる環境を迎えるのに時間がかかった。そんな中1890年に初めてスペイン語教員エミリオ・ビンダ先生が来日する。彼女が日本人職員ヒヤマ・ゴザプロにはじめてスペイン語の指導を行う。そして1893年3月には東京でスペイン言語語団体が発足される。フィリピン、スペイン、アメリカなどのスペイン語圏との通商を強化する為、スペイン語の教育を促進した団体とされている。1897年代には、東京外国語学院(現在、東京外国語大学)でスペイン語学科の最初の学科長が就任される。第二次世界対戦以前、スペイン語学科を持った大学は、たった3校のみであった。その3校の内の2校が東京外国語大学と大阪外国語大学である。大阪外国語大学は1921年にスペイン語学科を発足し、スペイン語の教育を開始する。

1955年12月4日には日本ヒスパニック言語学会が設立され、数年後に日本ヒスパニック協会へと変更される。この協会はスペイン語学、文学、スペイン語文化圏の研究促進を目的として発足された。2年後には日本ヒスパニック会が開催され、スペイン教会にスペイン語教室を開き、さらに1973年スペイン語技能検定試験を開始する。そして、1958年に上智大学、1861年に清泉女子大学、神戸外国語国立大学1962年には名古屋の南山大学

がスペイン語学科を開始する。このようにして次々と大学各校がスペイン語の教育を開始させるのである。また、国民放送 NHK は1967年にスペイン語コースの放送を開始。現在でも非常に人気がある放送である。

鎖国により一度は閉ざされたスペイン語との関係は、20世紀の終わりから21世紀のはじめにかけ、改善され教育の現場で広がりを見せていった。

・スペイン語教育の現状について

日本では文部科学省が中学校より英語科目の教育を義務付けているなど、言語といえば「英語」という教育が根付いているといえる。そのため英語に比べてしまうと、スペイン語はまだまだ関心が少ない言語ではあるが、他のヨーロッパ言語と比較した場合、スペイン語を学ぶ割合は多い。その理由は、学術的な観点や貿易・政治、経済的な視点はもちろんだが、国民にとってサッカー、フラメンコ、料理、スペイン美術、ラテン音楽など、身近にスペイン語圏の文化があらわれたことにより、関心度が高まっていたためだと考えられる。この煽りをうけ、第二外国語としてスペイン語を選択する学生の数が増加している。

このようにしてスペイン語の需要そして、教育は広がりを見せているが、英語に比べ環境が整えられていない現状がある。現に、英語の場合は文部科学省に従って教育を行うガイドラインが定められているにも関わらず、スペイン語においては具体的なガイドラインがない。そのため各校がそれぞれの判断で教育内容や教育手法、コース設計、使用する教材の決定を行う。そしてここから更に二分化する。日本人教師とスペイン圏教師では教育方法が大きく異なる。日本人教師は、外国語の教育は伝統的な手法を用いて理論的に遂行する傾向にあり、これに対しスペイン語圏教師は、主に言語への関心を高めるため「会話」及び「文化」に比重を置く。つまり、日本人教員は正しい文法を理解させることで言語を頭で理解させる。外国人教師は、文法には触れず日常生活の中からコミュニケーションを通して理解させるのだ。そのため、学生の教育が教師によって二極化する傾向にある。

・日本の教育における外国語の伝統的な学習法

日本の外国語学習の始まりは、5世紀から6世紀で行われた日本語における漢字(中国)の採用まで遡ります。国は仏教、儒教、古典のテキストを用いるなどして、中国語の知的、政治的、哲学的、宗教的観点の研究に没頭しました。主に漢字の意味を調べ、日本語に訳す。この繰り返しを行うことにより、当時の広東語(中国語)の理解を深めた。これが現在の文法訳読法の原点であり、今も根強く残っている。コミュニケーションではなく文法に重きを置いた理論的な学習法が生まれたのである。

その後、16世紀に先にも述べたイエズス会宣教師らの西洋人が次々と日本を訪れることとなるが、禁教令の発令により迫害がはじまり、のちに鎖国政策が始まる。外国語学習が合法化されたのは、18世紀以降になるのです。

鎖国時代の約200年間、唯一西洋に開かれ貿易口が長崎の出島である。ここでは日本で唯一対オランダ貿易交渉と居住が許可された。オランダ語を学びはじめた日本人は、経済商業交流、外交関係以外にも、蘭学（ヨーロッパの学術や文化・技術）を学んだ。この蘭学の研究のため、学校を設立した最初の日本人は、大槻学者である。

そして18世紀にはナポレオンの勝利により勢力をつけたフランスの影響を受け、フランス語も認知されはじめ、広東貿易からオランダを追放したことにより、英語が普及することとなる。このようにして19世紀以前は、外国語と文化、特に西洋文化の研究は非常に不安定であったが、欧米化の政策により一変した。

多くの日本人が海外に派遣され、現地での語学教育を受けられることとなった。同じくして、日本国内でも多くの民間語学アカデミーが発足された。ここで最も教育された言語は英語、ロシア語、フランス語、ドイツ語であった。そして、1860年にはじめて私立学校を中心に、はじめて英語の教育が導入される。

1873年には、文部科学省によって外国語の高等学校が開校される。ここでは従来の文法訳読法が放棄され、会話を中心とした教育がなされた。しかし、その後何度も日本での教育政策は改正され、従来の文法訳読法に落ち着く。

ここ20年間でも、外国語の教育法の改正は注目されている。よりコミュニケーションに比重を置いた教育システムにも注力しており、文化交流の観点でも多くのネイティブ教師を採用しようとしている。その取り組みの一つともいえるのがJETプログラムである。外務省や文部科学省・総務省の協力下で、地方公共団体が諸外国の若者を特別職の公務員として採用し、日本全国の学校で外国語などを教育し、国際交流を深める取り組みだ。このJETプログラム以外にも非常勤講師でのネイティブ教員の採用が行われるなど、少しずつ外国後教育の歴史の見直しが進んでいる。

ここからは、「規制された教育システム」と、「非規制教育システム」の構成の違いを紐解いていく。

規制された教育システムは、文部科学省直轄の小学校や中学校、高校、大学などの公式教育制度を示す。そして、非規制教育システムは国家教育制度の一部ではない。駅前英会話教室や塾など、その教育システムが法律によって規制されていないものを示す。

日本の教育制度は、制度に基づいていて基本的には小学校6年、中学校3年、高校3年、大学4年（短期大学では2年）と定められている。大学への進学は、この理想的な教育システムに含まれているが、必須ではない。しかし日本は大学生の割合が高い国の一つとしても知られている。しかし日本には大学以外にも短期大学や専門学校などが存在するが、その学校の数はこのカウントに含まれていない。それでも日本は大学生の割合が高い国となっている。

中学校では、必須科目として英語が導入されている。現在では英語以外の外国語を任意科目として学習することができる学校も一部現れている。そして日本では、中学校卒業後、学問を継続するか学問を終えるかを個人が判断することができる継続を選択する場合は、3つの分野から選択ができる。高等学校、専門学校、高等専門学校のだ。これらを卒業することにより、大学受験の権利を得ることができる。

高等学校では、選択科目として英語とは別に多くの外国語を学ぶ機会が与えられる。

これらの科目を選択する学生の多くは、後に大学で専攻をする目的で選択する傾向にあ

る。

このように高等学校での外国語教育の幅は広がりを見せているが、まだ過大は多くある。文部科学省は、理論的には外国語クラスのコミュニケーション能力の重要性を、1989年以來說いてきた。しかし、学習プロセスの大部分は文法や単語の暗記となっており、日本語と外国語の語彙リストの暗記繰り返しである。先にのべた文法訳読法だ。文法訳読法は、外国語のテキストを読み、それを日本語の単語に翻訳する。そのため文脈を通じての理解が難しい。

さらに教育法だけでなく、これを学ぶ学生の認識にも課題が見える。現在英語の学習は高校や大学へ受験突破の一つの通過ツールとして認識している学生が多い。試験に合格するため、会話ではなく文法・単語の理解に重点を置いているのだ。

このような課題の一つの突破口となっているのが、JETプログラムなどの導入だ。ネイティブ教師が日本人教師とタッグを組み教育をすすめることにより、少しずつその効果及び変化が見受けられるようになってきている。これまで外国語を学ぼうとする学生は、ネイティブスピーカーとの関わりがなく、コミュニケーションに関心をもつ機会がなかったが、ネイティブ教師との触れ合いをもつことにより、その学習の幅を広げている。この取り組みにより受験に合格するための一つのツールとなっていた言語が、学生の関心を引き需要を高め、大学への進学や大学での外国語の専攻に繋がっている。

日本の大学では、学生が専攻した学科に関係なく、言語学を選択することができる。大学の中には強制的に英語の専攻をさせるところもあり、英語に加えて1つまたは2つの外国語の専攻を促進している。また今後のグローバル社会に先立ち、国際交流や文化研究のプログラムなども用意されている。このように日本では今日、外国語（言語）だけへの関心ではなく、文化や国際交流にも着目した取り組みが進められている。

この取り組みに積極的に着手している学校は下記である。

東京外国語大学 ・ 東京大学 ・ 神田外国語大学 ・ 神戸外国語大学

関西外国語大学 ・ 長崎外国語大学

このようにして中学・高等学校での教育と比較し、国際交流や文化研究、コミュニケーションに注力している大学での教育法は改善の兆しがみえてきているのだ。しかし、未だ根強く従来の文法訳読法が残っていることは否めない。それは上記の取り組みを行っている各校でも、語学教育に関する教育的ガイドラインがないため、各学科でカリキュラムを設計し目的、内容、評価など独自で設定しなくてはならない。そのため、どこの大学でも日本の歴史的な教育法の限定である文法訳読法が土台にあるためだ。

外国語を学ぶ上で必ず、2つのクラスを受講することになる。基礎（文法とライティング）のクラスと会話のクラスだ。この2つには大きな違いがある。ほとんどの場合、基礎のクラスでは日本人教師が学生の母国語で講義を行い、中学校や高等学校と非常に似た事業カリキュラムを進める。一方、会話クラスでは、ネイティブスピーカーが講義を行う。中学校や高等学校との講義内容と一変してロールプレイングや外国語を主とした講義構成となる。また、教師への敬意を重要視する日本文化があるが、外国では生徒との友好的な関係を重要視する。このよう教師・文化的な考えが対比しており、講義にも違いをもたらしている。

そして「語学学校」「塾」「国際交流センター」などの非規制教育システムは、学生が自

身の目的に合わせて受講する。一つは、進学を目的とし入学試験の突破に比重をおくもの。既に大学などで外国語を学んでおり、その語学力の強化や検定試験の取得に比重をおくもの。そして、旅行やビジネスシーンでの個人のステータス向上に比重をおくもの。その学生の分野は3つに大きく分けられる。

日本は国際社会においても教育主義とされる国であり、この非規制教育システムの導入にも非常に積極的であった。特にこれを根拠づけるのは、20世紀後半のバブル時期。賃金収入の増加に伴い、非規制教育システムに多額の資金を費やした。規制された教育システムだけでは教育が不順だという認識がされ、目的の達成には非規制教育システムが必要不可欠とされたのだ。これらの非規制教育システムは、3つの目的をかかえた生徒の期待を上回り、学校の成績を向上や、大学進学場で結果を残してきた。

実際、現在では中学・高校時期では多くの学生が塾に通っている。学校を終えてからはもちろん、週末や学校の長期休みにも通学を繰り返す。中には幼稚園時や小学生時代から通学する学生もあり、これは親が進学や成績のみではなく、将来社会で実践的に活用させることを目的としているからである。ただし、非規制教育システムである塾や語学学校にも違いがある。塾は規制された教育システムで使用される教育方法に非常に似ている。すなわち文法訳読法を採用している。外国語をコミュニケーションの手段として認識しているのではなく、あくまで進学や成績の向上を目的としているためだ。しかし今年では、その塾にも変化が見受けられている。ネイティブ教師が採用され、英語の会話クラスが設けられはじめているケースも発生してきている。

そして語学学校は、現在日本国内で多く開校されており、東京、大阪、横浜のような大都市では駅近郊で複数存在する。代表的な語学学校といえば、英会話学校である。英語を主とした語学学校ではあるが、英語以外の外国語も選択できる仕組みとなっている。教師のほとんどがネイティブ教師であり、授業の大半はコミュニケーションの実施。文法などの割合はほとんどない。TOEIC、TOEFL、DELE、英語検定の資格取得を目的とした場合は、特別コースが用意されており、目的に合わせて受講内容を変更することができる。そして国際交流センターでは、政府・自治体などから補助を受け発足されている。例えば、日本文化研究所（駐日韓国文化院）やフランセー美術館（アンステンテス日本）などがその一例である。但し、言語の学習という観点からは少し離れた立ち位置にあり、異文化交流を主とした運営がされているケースが高い。展覧会や音楽・コンサート、映画上映など、文化やレジャーに触れ合う活動がほとんどである。

・スペイン語を受講する学生の特徴

スペイン語を受講する学生の特徴はさまざまである。そのため一人ひとり特徴や目的をしっかりと教師が理解する必要がある。また、学生の目的に限らず、重要となってくるのはその適性、能力、知性、性格、モチベーションを把握することにある。

ここで外国語を学習する日本人学生と接触している教師や研究者の見解を下記に記載する。

- ・受動的であり、講義へ積極的に参加しないもの

- ・内向的であり、自己の意見に自信がないもの
- ・文法を理解しているが、コミュニケーションに落とし込めないもの
- ・訳読の知見は高いが、コミュニケーションに落とし込めないもの
- ・電子辞書や辞典に依存するもの
- ・能動的であり、講義へ積極的に参加するもの
- ・個人もしくは極少数のチームでの活動を好むもの
- ・教師に敬意を払うもの
- ・日本の社会規範に従って他の個人との関わりをもつもの

次に、スペインのサラマンカ大学で2002年に行われた日本語とスペイン語の逆翻訳コースに参加していた19～80歳の日本人学生の特徴に関する教師のアンケート結果を記載する。

- ・モチベーションが高く、時間厳守である
- ・積極的に講義に参加しないが、恥ずかしがり屋ではない
- ・日本人特性の内向性を感じる
- ・新しい環境に慣れるのに時間がかかる
- ・グループワークを好まず、少人数を好む
- ・文法の理解は高いが、コミュニケーションスキルに欠けている
- ・グループに属するときは、同じ国籍のグループを好む
- ・スペインや中南米への文化に関心が高い

このようなアンケートから日本学生の特性が下記のように分析できる。

- ・内向的であり、主張が少ない
- ・受動的であり、教師からの問いかけがなければ動かない
- ・筆記テストの成績は取れるが、コミュニケーションや聞き取りスキルに欠ける
- ・外国人学生に比べ、日本人学生は完璧主義や間違いを恐れることから課題の提出に時間がかかる。

研究の一人 Astigueta が (2004) に、日本人学生の長所と短所に関する記事を掲載してしる。彼が長所と考える側面は、規律を重んじる力、集中力、継続的努力。責任力や競争力、暗記力、翻訳力、英会話力、理解力などにあると説いている。

一方、短所と考える側面は、情緒的未熟さとグループ依存 (携帯電話依存)。自尊心、受動的。想像力の欠如。否定的な自己評価。入学試験に合格するためのツールとして、暗記に頼る姿勢。コミュニケーション能力の低さとしている。同様の見解が他の研究者の調査でも報告されている。

現在では海外留学が定着してきている。日本における海外留学は、他の国と比較した場合、長い月日を過ごすことができる。1ヶ月の短いものもあれば6ヶ月～1年の歳月をかけて現地の言語を学ぶことができる。そしてその留学を希望する多くの学生が、女性である。このような歳月の違いにも現地の教師は驚かされるが、中でも日本学生で驚かされるのは、50歳以上や定年退職を迎えた高齢者の留学希望者が多いということだ。この高齢者学生は、趣味の一環としてスペイン語を学んでおり、脳の活性化など若年層の学生とまた違った目的を抱えているのだ。

この高齢者学生は、スペイン語学習のモチベーションが非常に高く、伝統的な日本の外

国語の勉強法＝文法訳読法に強く、個人学習を好む傾向にある。モチベーションが高いからこそ、外国語を学ぶことができるのだ。

このモチベーションの要因を調査した結果が、下記のアンケート内容となっている。1つ目の質問の内容は、「なぜあなたはスペイン語を勉強していますか」というものだ。

- ・私はスペイン／ラテンアメリカの文化が好きです
- ・私はスペイン／ラテンアメリカに旅行したい
- ・多くの国々や多くの人々と話したい
- ・私はスペイン／ラテンアメリカの友達がいるから

2つ目の質問は、「スペイン語圏のどの文化に興味をもったのか」というものだ。学生の回答は様々で、美術や音楽、スペイン料理、映画、サッカー、文学であった。

そして最後の「どういったシチュエーションでスペイン語を利用したいですか」という問いには、スペイン語圏の方々とコミュニケーションを図りたい。テレビ番組を理解できるようにになりたい。簡単な著書をスペイン語で理解できるようにになりたい。という回答があがった。

・日本人学生の学習におけるニーズの分析

日本人学生の特徴を調べることによって、外国語を教育する上で重要な点を紐解くことができる。これに加えて日本人学生のニーズに合った教育手法を遂行することができれば、結果学生の言語力の向上に繋げることができる。講義内容の構成やシラバスの作成にも大きく影響する点となる。

日本人はこれまでの文化から伝統的な文法訳読手法の学習を取り入れている。しかし、ネイティブ教師はコミュニケーションを中心とした学習法を重んじる。日本学生のニーズに置き換えて考えたとき、両方の学習法が必要とされている。どちらだけが必要なのではなく、双方の学習法を学生に置き換えて使い分ける必要があるのだ。自国の教育方針に囚われることはせず、学生のこれまでの教育文化に歩みより、尚且つ自国の教育法の利点を最大限に活用する必要があるのだ。

今回、日本人学生へのスペイン語学習に関するアンケートも実施した。これにより学生のニーズとスペイン語の教育法を掛け合わせた時、コミュニケーションスキルの向上を図るポイントは下記の項目だと考えられる。

- ・学生の生活に近く、想像しやすいシチュエーションを決定し、そのシチュエーションに沿った単語や会話を学生に想像させる。
- ・学生の実生活で活用する単語や会話例を主とした講義を行う。
- ・学生が自身の感情を講義の中でも伝えられるような、感情などを表す表現法を講義する。
- ・学生一人ひとりの理解レベルの確認や正しいクラス分けを行う。
- ・学生自身が自己の正しい評価を行えるよう、教師が明確な評価やツールを示す。
- ・教師との関係性を深めるため、そしてしっかりとした評価などを理解するため、定期的面談を実施する。

- ・講義におけるアンケート調査を実施する

この手法はどの学生・教師でも置き換えられる方法であり、各校でアンケートを行って実施すべき内容であると考えている。

また、今回実施した学生向けのアンケートの中には、スペイン語教材の選定や日本人教師とネイティブ教材の違いなどの項目も含まれている。まずは教材についてのアンケート結果を記載する。どの教材が一番利用しやすいですか」という問いに対し、下記の回答があった。

- ・日本の教材が良い
- ・スペイン留学時に利用した教材が良い
- ・海外にいったことがないので今の教材しか知らない
- ・特にない

留学経験をもつ学生以外は日本教材を好む傾向にある。ただしそれは純粹に他の教材を知らないという点が大きいと考える。実際に他国の教材も活用し、アンケートをとることにより本当の需要を引き出す必要があると私は考える。海外の教材に触れることで、海外の教育法を受け入れ易くなる可能性があるからだ。

また、アンケートの中には下記のような問いも含まれている。「どんなスペイン語を学びたいか。もしくは文法・会話・読解など、どういったスキルを特に高めたいか」。この問いに対し、9つの選択肢から回答を一つ選ぶものだ。

- ・上級レベルのスキルを身につけたい
- ・オーラルコミュニケーションができるレベルのスキルを身につけたい
- ・ライティングスキルを高めたい
- ・ビジネスレベルのスペイン語スキルを身につけたい
- ・貿易関連のスペイン語スキルを身につけたい
- ・法律関連のスペイン語スキルを身につけたい
- ・化学関連のスペイン語スキルを身につけたい
- ・旅行や観光できるレベルのスペイン語スキルを身につけたい
- ・翻訳・通訳レベルのスキルを見つけない
- ・その他

このアンケートの回答をみていくと、「どうしてスペイン語を学びたいのか」の回答と同等の意味を持つことに気づく。回答の多くは、ビジネスに直結した目的をもった学生が多いことを示しているのだ。

また、アンケートの間23の回答は特に興味深い内容になっている。「スペインで学ぶスペイン語教育と日本で学ぶスペイン語教育のどちらを希望しますか」という問いだ。回答は以下の通り。

- ・日本で学ぶスペイン語教育
- ・スペインで学ぶスペイン語教育
- ・どちらでもいい
- ・わからない

この答えと合わせて、選択した理由も集計している。これらの回答は、学生の視点からみた適切な指導法や講義プログラム、教材の選択などの判断材料とすることができる。

また上記の問いと合わせて、「スペインで学ぶスペイン語教育と日本で学ぶスペイン語教育に違いはありますか」という問いも行った。この問いに対し、20%の学生は回答がなく、80%の学生は違いがあると回答した。その違いは、スペイン語に触れられる時間にあると考えるものが多くいた。日本でのスペイン語教育は時間数が限られており学ぶのに限界がある。学生が日本でスペイン語に多く触れようとする場合、大学などの他に語学学校を選択する道はあるが、英語に比べ受講料は高い。また、スキルレベルに合わせた講義を選択することも難しい現状がある。しかし、スペインで学ぶスペイン語教育は常にスペイン語に触れられる環境にあるため、短い時間で上達ができるのだ。

・考察

これまでスペイン語の歴史や現在の教育状況、日本学生の特徴や学生のニーズに関するアンケートに関して触れてきた。これらから学生が何を求め、何を求めているかを識別し、スペイン語を学ぶためのより良い環境づくりを教師が行う必要があることがわかる。そしてこれはスペイン語に限らず、全外国語の教育法に当てはめると考えられる。

スペイン語を学ぶ学生の目的はさまざまであるが、特にニーズが高いのはビジネスなどでの場で活かせるライティング・コミュニケーションスキルだ。

文法はやはり母国の言語でなくては、理解することができない。もちろん文法が理解できなければ、文章の読解は難しい。そのためにはやはり文法訳読法により、何度も繰り返し単語や文法に触れる必要があるのだ。しかし、文法や教材からだけでは、コミュニケーションスキルを養うことはできない。そして文面だけのスキルではビジネス現場では成り立たないのだ。ネイティブ教師と多くのシュチュエーションを想定したロールプレイングを行い、ネイティブ教師のリアクションや単語の利用方法を肌で感じることでコミュニケーションスキルだけではなく、外国人との関わり方も学べるのだ。

日本人教師とネイティブ教師の違いを拙劣に捉えるのではなく、日本学生の特徴・学生のレベル・ニーズに合わせて講義を構成・カスタマイズしていく柔軟性のあるシステムとして構築・認識していく必要があるのではないか。そのようなシステムが構築できれば日本社会における外国語教育は大きく成長できると考える。

参考文献

- ASTIGUETA, B. Aspectos generales sobre la enseñanza del español en Japón [en línea]. Biblioteca Virtual redELE, 2004. Disponible en web: «<http://www.doredin.mec.es/documentos/00820113012280.pdf>» [Consulta: 26 de abril de 2013].
- ASTIGUETA, B. Chuukoutou gakkou ni okeru supeingo kyouiku hou: genjou to mondaiten, kaizen no tame no jouhou to teigen «Didáctica de la enseñanza de español en las escuelas secundarias –Estado, dificultades y propuestas para superarlas». Kanagawa

- Prefectural Institute of Language and Culture Studies, 2012, núm. 1, p. 8599.
- CAÑAS, A. El español en Japón. En: VV. AA., Enciclopedia del español en el mundo. Madrid: Instituto Cervantes, Plaza & Janés, Círculo de Lectores, 2007. p. 150-152. Disponible en web: «http://cvc.cervantes.es/LENGUA/ANUARIO/anuario_0607/pdf/paises_27.pdf» [Consulta: 18 de mayo de 2013].
- INSTITUTO CERVANTES. Diccionario de términos claves de ELE. [En línea]. Disponible en web: «http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/diccio_ele». [Consulta: 21 de mayo de 2013].
- GARCÍA-ROMEU, J. (2006a). Análisis de necesidades, negociación de objetivos, autoevaluación: una aplicación didáctica para evaluar y adaptar programaciones de cursos de nivel avanzado. [Memoria de máster] Madrid: Universidad Antonio de Nebrija. Disponible en web: «http://www.mecd.gob.es/dctm/redele/MaterialRedEle/Biblioteca/2007_BV_08/2007_BV_08_13JGRomeu.pdf?documentId=0901e72_b80e53850» [Consulta: 19 de marzo de 2013].
- SAITO, A. Perfil de los estudiantes japoneses de español en España. Interlingüística, 2006, núm. 17, p. 944-950.
- UGARTE, V. El español en Japón. En: VV. AA., El español en el mundo. Anuario del Instituto Cervantes 2012. Madrid: Instituto Cervantes, 2012. Disponible en web: «http://cvc.cervantes.es/lengua/anuario/anuario_12/ugarte/p01.htm» [Consulta: 28 de abril de 2013].

外国語としてスペイン語を学ぶ日本人学生のニーズに関するアンケート調査

1. 性別 男 女
 2. 年齢 ……………
 3. 出身 (都市)……………
 4. a) 学歴

修了した教育課程にのみ×印をつけてください。

- 初等教育または小学校 中等教育 / 中学校
 高等学校 (3年) 高等専門学校 (5年)
 商業・工業高校 / 職業訓練課程
 大学 : 学士課程
 大学院 : 修士課程および / または博士課程
 その他 :

b) 教育課程を修了した学校名

.....

5. 日本での職業 / 仕事 :
6. 趣味または興味のあることは何ですか ?

7. 母国語 :
8. どの外国語を習得していますか ? 各技能のレベルを示してください。
 レベル : 初級 - 中級 - 上級 - 最上級 - ネイティブレベル

言語	話す	聞く	読む	書く

9. a) スペイン以外のスペイン語圏の国に行ったことはありますか ?
 はい いいえ
 b) どの国ですか ? _____

c) 答えが「はい」の場合、訪問理由と滞在期間について説明してください。

.....

10. スペイン語は...

- 私にとって第1外国語です。
 私にとって第2外国語です。私の第1外国語は：.....
 私にとって第3外国語です。私の第1、第2外国語は：.....
 私にとって第4またはそれ以降の外国語です。私の第1、第2、第3外国語は

.....

11. a) スペインに来る前にスペイン語を勉強しましたか？ はい いいえ

b) どのぐらいの期間、スペイン語を勉強しましたか？

c) どこでスペイン語を勉強したか教えてください。

.....

12. どうしてスペイン語を学ぶことにしたのですか？ はい いいえ

- | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|
| - 多くの外国語を習得したいから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペイン語圏の文化についてもっと知りたいから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - 仕事で必要だから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペイン企業またはラテンアメリカ企業、 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - あるいはスペイン語圏の国々と取引のある日本企業
に就職したいから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペイン語圏の国または国々を旅行したいから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペイン語圏の国に住んでみたいから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペイン語圏の恋人がいるから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペイン語を話す友達が沢山いるから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - 自分の履歴書をもっと良くしたいから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - サッカーが好きだから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| - スペインおよび/またはラテンアメリカの映画、
音楽、テレビドラマ、文学などが好きだから | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

その他：.....

13. 何のためにスペイン語を学ぶ必要があるのですか？

- 仕事 学業 観光 個人的理由
- スペイン語を学ばなければならない特別な理由はありません。ただ、スペイン語を勉強するのが好きだけです。
- その他：.....

14. a) 改善したい点はどれですか？ 0=全く 1=あまり 2=かなり 3=すごく

文法	0	1	2	3
語彙	0	1	2	3
発音	0	1	2	3
会話	0	1	2	3
ライティング力	0	1	2	3
リスニング力	0	1	2	3
読解力	0	1	2	3

b) 以上の 7つの選択肢のうち、最も改善したい技能はどれですか？

.....

15. どんな学習スタイルを好みますか？以下の選択肢から 1つ選んでください。

- 言語、特に文法について学んでそれについて考えたり、文法の練習問題をしたり、発音の練習などをしたいです。正しく表現できる自信があるときだけ、間違いを極力 犯さないようにして話すのが好きです。勉強した、復習するときには、クラスで使っているテキスト、マニュアルや辞書を使います。
- 実用的な練習をする (新聞のニュースを読む、テレビを見る、ラジオを聴く..) ことに興味があります。クラス内であれ、クラス外であれ、なんでも機会があればスペイン語を話す練習をしたいです。スペイン語圏の友達が話すのを聞いたり、彼らのEメールまたはソーシャルネットワークでのコメントを読んだりしてスペイン語を学ぼうとしています
- 新しい単語を書いて覚えるのが得意なので、目から覚えるのが好きです。新聞や雑誌を読んだり、映像を見たりするのが楽しいと感じます。
- 新しい言葉は聞いて覚え、歌も容易に理解できるので、耳から覚えるのが好きです。マニュアルやテキストブックの付属として付いてくるCDを家で聞きます。
- 言葉を習得するには、身体、身体の動きや物などを使用することがとても大切だと思います。
- 以上のどの選択肢も当てはまりません。自分自身の学習スタイルが確立しており、あらゆる種類の戦略や資料を使っています。外国語を学ぶ際は、以上の要素のすべてを統合すべきだと思います。

16. クラスではどのようにして学ぶのが好きですか？

	0 = 全く	1 = あまり	2 = かなり	3 = すごく
読んで学ぶ	0	1	2	3
テキストブックの CD、歌や音声の録音などを聞いたり、使ったりして学ぶ	0	1	2	3
先生やクラスメートと会話して学ぶ	0	1	2	3
写真、ビデオや映画を使って学ぶ	0	1	2	3
ノートにすべてを書き取りながら学ぶ	0	1	2	3
コースのマニュアルを使って学ぶ	0	1	2	3
ゲームを通して学ぶ	0	1	2	3
学生の経験、出来事やニュース情報などに関連した活動を通して学ぶ	0	1	2	3
観察や文法練習などの活動を通して学ぶ	0	1	2	3

17. クラスではどんな形態を好みますか？

	0 = 全く	1 = あまり	2 = かなり	3 = すごく
ひとりで、または先生のサポートを受ける	0	1	2	3
二人組み	0	1	2	3
小グループ	0	1	2	3
クラス全体で先生のサポートを受ける	0	1	2	3

18. a) 現在スペインで、外国語としてのスペイン語学習マニュアル（教科書）としてどれを使っていますか？

.....

.....

b) 日本でスペイン語を勉強した場合には、どのマニュアル（教科書）を使用しましたか？

.....

.....

c) 次の選択肢から 1つ選んでください。

- 日本で使ったマニュアルの方が好きです。現在スペインで使っているマニュアルの方が好きです。
- 日本ではスペイン語を勉強したことがありません。現在使用しているマニュアルしか知りません。
- 片方が特に好きということはありません。

d) 先ほどの質問で最初の2つのうちのどちらかを選んだ場合は、その理由を説明してください。

.....

19. a) 日本におけるスペイン語教育とスペインにおけるスペイン語教育との間に何か違いがあると思いますか？

ある ない

b) 「ある」とする場合、その主な違いは何ですか？

.....

20. a) 間違えることについてどう思いますか？

上達する手助けとなるので良いことだと思います。それに、間違いを避けることはできません。

間違いを沢山犯すということはまだ十分学んでいないということだから、悪いことだと思います。もっと勉強する必要があります。

それは良くも悪くもありません。出来る限り間違いを犯さないようにするべきです。

あまり気にしていません。

b) クラスメートの前で間違えるのは恥ずかしいですか？

はい、常に

いいえ、恥ずかしいことはないか、めったにない

状況による

c) 間違いから学んだり、同じ間違いを犯さないためのなんらかの戦略を使用していますか？

.....

21. どんな評価方法が好きですか？ 0 = 全く 1 = あまり 2 = かなり 3 = すごく

口答試験	0	1	2	3
筆記試験	0	1	2	3
継続的評価	0	1	2	3
中間試験	0	1	2	3
最終試験	0	1	2	3

22. 将来的にはスペイン語のどの部分をさらに学びたい、あるいは強化したいですか？

選択肢3つにまで印をつけることができます。

- 最上級レベルに達するまでスペイン語全般の学習を継続したい
- スペイン語を話す力、会話のクラス
- スペイン語を書く力、作文のクラス
- ビジネススペイン語および／または商業スペイン語
- 法務スペイン 科学スペイン語 観光スペイン語
- 翻訳者・通訳者向けスペイン語
- その他：.....

23. a) 日本人のスペイン語学習者の視点からみた個人的な意見についてお聞きします。

どのようなスペイン語教育が最も適切または推奨できると思いますか？

- 日本でのスペイン語教育
- スペインでのスペイン語教育
- 両方良い面と悪い面があるので、どちらか 1つを選ぶことはできない

b) それはどうしてですか？

.....
24. a) スペイン語圏の国々に対して一般的にどんな印象を持っていますか？

.....
b) スペイン語についてはどうですか？

.....
25. a) スペイン語は日本で役に立つと思いますか？

- 非常に役に立つ
- 役に立つ
- あまり役に立たない
- 全く役に立たない

b) スペイン語は日本のどの領域または部門で最も重要だと思いますか？

選択肢 3つにまで印をつけることができます。

- ビジネスと企業
- 国際関係
- 翻訳 / 通訳
- 観光
- 文化部門 (展覧会やコンサートや映画など)
- レジャー (サッカーやフラメンコクラスなど)
- 人間関係などの情緒的領域 (スペイン語圏の友達を作る、スペイン語圏の恋人または配偶者をもつ、海外の日系人コミュニティの一員になるなど)
- その他：.....

26. スペイン語圏の国々やその国民に対して日本人はどんなイメージを持っていると思いますか？

- 複数の選択肢に印をつけることができます。
- 観光目的地として最高の国々である
- 犯罪や汚職の多い危険な国々である
- 人々が情熱的な人生を送っている国々である
- 政治的紛争の多い国々である
- パーティーやフェスティバルが頻繁に開かれ、一般的にあまり勤勉でない国々である
- スペイン語圏の人々は陽気で、人なつこくて、信仰に厚く、家族を大切にしている
- 良好な気候や種類の豊富なガストロノミーに恵まれた国々である
- エキゾチックな文化の国々である
- 新興経済、文化交流、天然資源の利用などの様々な理由から、将来的に良好な関係を築いておいた方がよい国々である
- 日本より伝統的で保守的な国々である
- その他：.....

27. 日本人はスペイン語に対してどんな見解を持っていると思いますか？

最もよく当てはまると思われる 3つの選択肢を選んでください。

- 英語に良く似た言語である
- ラテン語を起源とする言語なので、フランス語、イタリア語、ポルトガル語やその他の言語と関連がある
- スペインだけで話されている言葉である
- スペインとラテンアメリカで話されている言葉である
- スペイン、ラテンアメリカやその他の国々で話されている言葉である
- スペイン語の響きは心地よく音楽のようだ
- スペイン語の発音は覚えやすい
- 日本語と比べてスペイン語の文法はとても複雑だ
- スペイン語を話す人口が世界に数億人いる
- その他：.....

28. a) 日本におけるスペイン語やスペイン語圏の国々の存在感は大きいとあなたは思いますか？

- はい、大きい
- ほぼ大きい
- いいえ、
- 大きくない

b) 以下の選択肢における存在感はそれぞれどのぐらいですか？

各選択肢につき、0から3のうち番号を一つを選び、枠内に記入してください。

それぞれの番号は以下を意味にします。

0 = 存在感がない、1 = 存在感が薄い、2 = 存在感は中程度、3 = 存在感が大きい

- 新聞 テレビのニュース テレビ旅行番組 料理番組
- 時事問題または歴史に関するドキュメンタリー
- 学校の語学コースまたはテレビ、ラジオまたはインターネットを媒体とする語学コース
- レジャー活動
- 大学 輸出入に従事する企業
- 日本と関係のある外資系企業または各種機関
- テレビ音楽番組 ファッション雑誌
- スペイン語圏のチームが参加するスポーツイベント
- ペルーやその他のラテンアメリカ諸国の日系人

29. 日本におけるスペイン語の有用性について日本人はどんな意見を持っているとあなたは思いますか？

スペイン語は：

- 非常に役に立つ 役に立つ あまり役に立たない 全く役に立たない

Received : October, 4, 2017
Accepted : November, 8, 2017